

Title	原口亮平解説 ほーきんす氏工場会計
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.1 (1922. 1) ,p.141-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220101-0141

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

以上はギブソン氏の提案の梗概であつて其計表本位制度が一國貨幣制度上最も適當なることは既にアービング、フイツシャー其他の人々の説に依つて明白なる所であるが其必要條件として國際間の協力が無ければ何等の効果もないのであるから若し此協約さへ成立すれば最も適當なる貨幣本位を見出し得るわけである。然しながら猶問題となるは第一萬國銀行はよく政治的圏外に超越し得るか第二其利子政策と一國關稅政策と兩立し得るか否か第三萬國紙幣の流通は一國の貨幣制度を混亂せしめざるか第四爲替値段を以て法貨たるの價格とすれば流通上に多大の不便を感ぜざるか第五通貨膨張の爲めに爲替相場の動搖を來したるものとすれば猶之以上紙幣を發行し流通せしめ得るか又國家が其通貨を恢收する手段と如何に聯絡を保つか。第六今日

の紙幣が兌換を基礎とする以上完全に兌換を行はずして割引政策を適用して其所期の目的を達し得るや否や等少く共之等の問題を考察しなければならぬのであるがそれは私のよく論じ得べき點でない。(完)

新刊紹介

原口亮平解説

ほーきんす氏工場會計

定價 貳圓參拾錢
發行所 實文館

ほーきんす氏の Cost Accounts は氏自らが其緒言に於て述ぶるが如く「製造原價の確定に關する原則を一般的に説明し例を用ゐて此原則の運用を明らかにする」目的を以て著されたるものにして、其説明の方法は先づ「原價を構成する要素を考察定義して然る後に順次に各要素を論ずるものなり、従つて「最初には原價計算簿に於ける其取扱方法を述べ然る後に一般の帳簿即ち會計帳簿に於ける其位置を説く」順序にして、部分々に確められたる智識は斯くて漸次に全體の系統中に納めらるゝ仕組となり居るが故に簿記に就て普通の素養ある者には何人にも

了解し易くして、然かも容易に之を實際に適用し得るの便ある良書なりと言ふも決して過ぎたりと謂ふ可からざるなり。而して之が解説の任に當られたる原口氏は極めて明哲なる文章を以て原著者の意を巧みに傳へられたるが如くなれば、評者は衷心より此書の出現を喜ぶと同時に之を吾等同好の士の左右に奨むるを辭せざらんと欲する者なり。(三邊金藏)

海運に關する米國の近刊書

二種

米國は歐洲戰亂前には自國の海外貿易額の一割をも自國船で運送することが出来ない程に商船の少きことを嘆じて居つたが、戰亂中に俄かに船が殖えて今や一躍して世界の大商船國としての地位を得、往年 Clipper 型帆船の時代に於て有せし優越の地位を再び恢復せむとするの勢を示すやうになつた。斯く船が俄かに増加した結果として此の船を如何に運用すべきかは米國